

# ゼロカーボンシティかごしまに挑戦！（鹿児島市）

## 1 ゼロカーボンシティかごしまに挑戦！

近年、猛暑や豪雨など異常気象による災害が国内外で増加しており、世界的に「気候危機」と呼ばれるほど極めて切迫した状況にあると言われてしています。

このような中、鹿児島市は国際社会の一員として、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする都市の実現に、市・市民・事業者等と一体となって取り組むことを決意し、「ゼロカーボンシティかごしま」への挑戦を宣言しました。

## 2 主な取組

### (1) ゼロカーボンシティかごしまのPR

市民にこの取組をわかりやすく伝えるため、「ゼロカーボンで2050年をOKな未来へ」というコンセプトのロゴマークを作成し、このロゴマークをデザインしたラッピング電車（市電）の運行を開始しました。

また、CO<sub>2</sub>排出削減に取り組む事業者を「ゼロカーボンシティかごしまパートナー」として登録し、相互に情報発信を行いながら、連携した取組を進めています。

今後は、PR動画やパンフレット等で具体的な普及啓発を行う予定です。



ゼロカーボンシティかごしまのロゴマーク



市電「ゼロカーボンシティかごしま号」出発式の様子  
(ゼロカーボンシティかごしまパートナーのみなさんと)

### (2) 若者を対象とした「かごしまゼロカーボンラボ」の開催

「地球のいまを学び、私たちにできることを考える」をコンセプトに、25歳以下の若者たちが、勉強会やワークショップなどを行う「かごしまゼロカーボンラボ」を開催しています。

第1回では、気候変動の現状と課題を専門家から聞くことで、どのような行動をしていくべきかを学び、意見交換を行いました。

今後は行動の輪を広めていく手法を考えイベントを企画し、開催する予定です。



ワークショップの様子



かごしま環境未来館の展示を学ぶ参加者

### (3) 市役所本庁舎の「ゼロカーボン電力化」

世界や国内において、「RE100※<sup>1</sup>」等の取組が急速に拡大している中、鹿児島市では、令和2年4月から、非化石証書※<sup>2</sup>等の仕組みを利用し、市役所本庁舎で使用する電力を、再生可能エネルギー由来のゼロカーボン電力に切り替えました。

これにより、本庁舎の電力使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量をゼロとすることができ、試算では、年間約1200トンのCO<sub>2</sub>を削減できると見込んでいます（一般家庭が電力使用に伴い排出する量に例えると、約730世帯分に相当）。

鹿児島市では、この取組を通して、地球温暖化の抑止に必要な不可欠である再生可能エネルギーの意義を多くの皆さんに知っていただき、再生可能エネルギーのさらなる普及を図っています。

※1「RE100」…事業運営を100%再生可能エネルギーで賄うことを目標とする世界的企業連合。

※2「非化石証書」…再エネで発電された電気には「環境価値」があり、その環境価値の一つである「非化石価値」を証書の形にして売買を可能にしたもの。



鹿児島市 再生可能エネルギー推進課

PRポスター

#### (4) 新南部清掃工場（ごみ焼却施設・バイオガス施設）の整備

資源循環型社会及び脱炭素社会の構築を推進するため、施設の老朽化に伴い更新を行う南部清掃工場のごみ焼却施設を、バイオガス施設と併せて一体の施設として整備しており、バイオガスを都市ガスの原料として活用するのは全国初の事例で、令和4年1月供用開始を予定しています。

(特徴)

- ① 搬入されるごみの安定的かつ適正な処理（処理能力：ごみ焼却施設 220 t /日、バイオガス施設 60 t /日）
- ② ごみを燃やした余熱を利用した発電（ごみ発電）を行い、地域への電力の還元や脱炭素化に貢献
- ③ 生ごみや紙ごみなどの廃棄物を発酵させ、発生したバイオガスを都市ガスの原料として活用



### 3 今後の取組について

ご紹介した主な取組以外にもCO<sub>2</sub>削減に向けた様々な事業を実施中です。また、現在、鹿児島市次期環境基本計画等の策定作業中であり、2050年にCO<sub>2</sub>実質ゼロを見据えた具体的施策を検討していくこととしています。

鹿児島市では、引き続き、ゼロカーボンシティかごしまの実現に向けた取組を推進していきます。